



令和6年度教育課程研究集会 小・中 総合的な学習の時間

総合的な学習の時間における 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた 授業改善について

令和6年8月

奈良県教育委員会事務局

義務教育課 教育統計係

指導主事 藤川 由佳

小学校学習指導要領前文

(平成29年告示)

これからの学校には・・・(略)

一人一人の児童が、

自分のよさや可能性を認識するとともに、

あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、

多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗

り越え、豊かな人生を切り拓き、

持続可能な社会の創り手となることができるよう

にすることが求められる。

第1の目標

総合的な学習の時間の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、
横断的・総合的な学習を行うことを通して、
よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくため
の資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

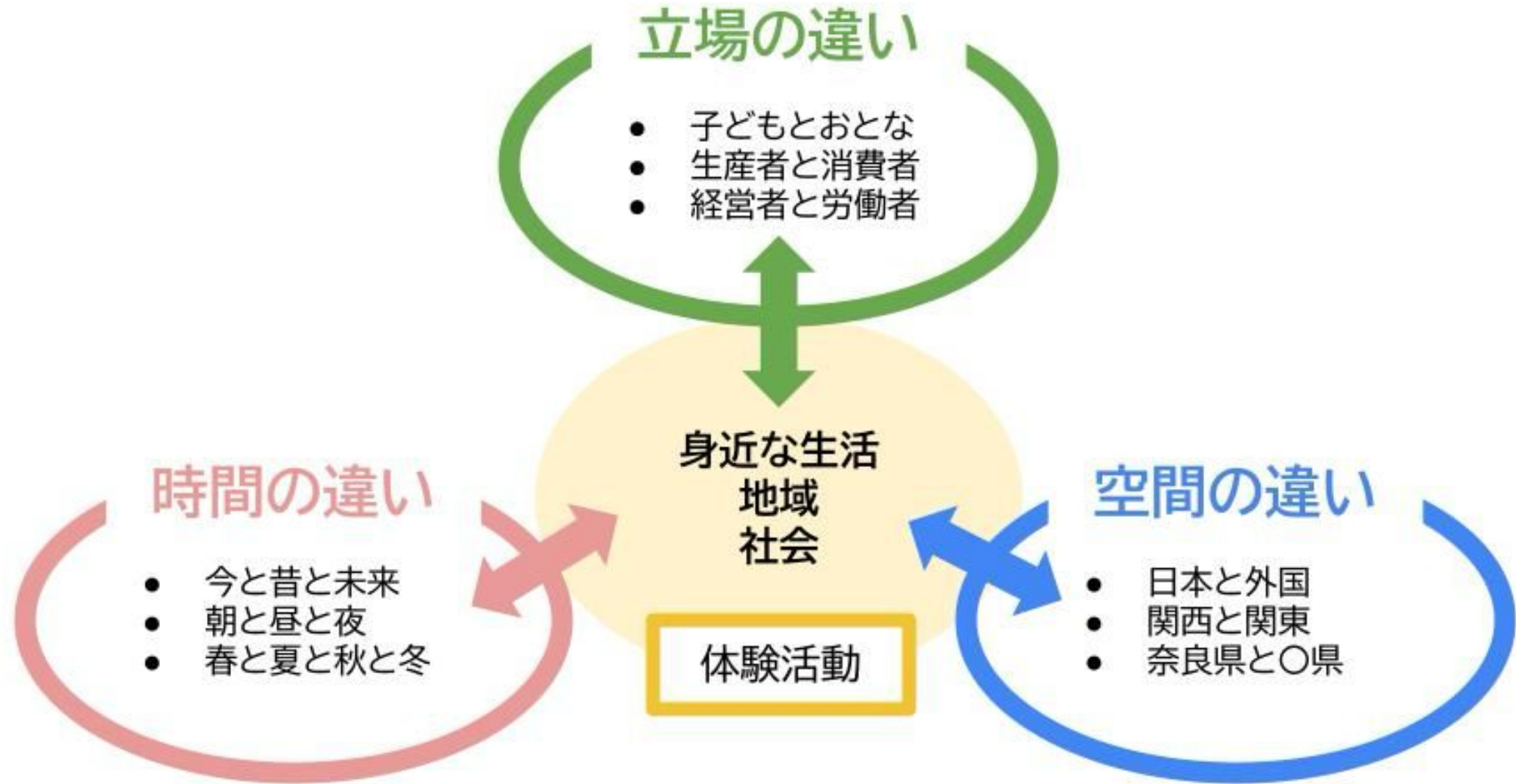
探究的な学習

問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく一連の学習活動であり、物事の本質を探って見極めようとする一連の知的営み。

探究の4つのプロセス

- ①【課題の設定】 体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ
- ②【情報の収集】 必要な情報を取り出したり収集したりする
- ③【整理・分析】 収集した情報を、整理したり分析したりして思考する
- ④【まとめ・表現】 気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する

課題の設定 (今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開)



理想

← ギャップ = 課題 →

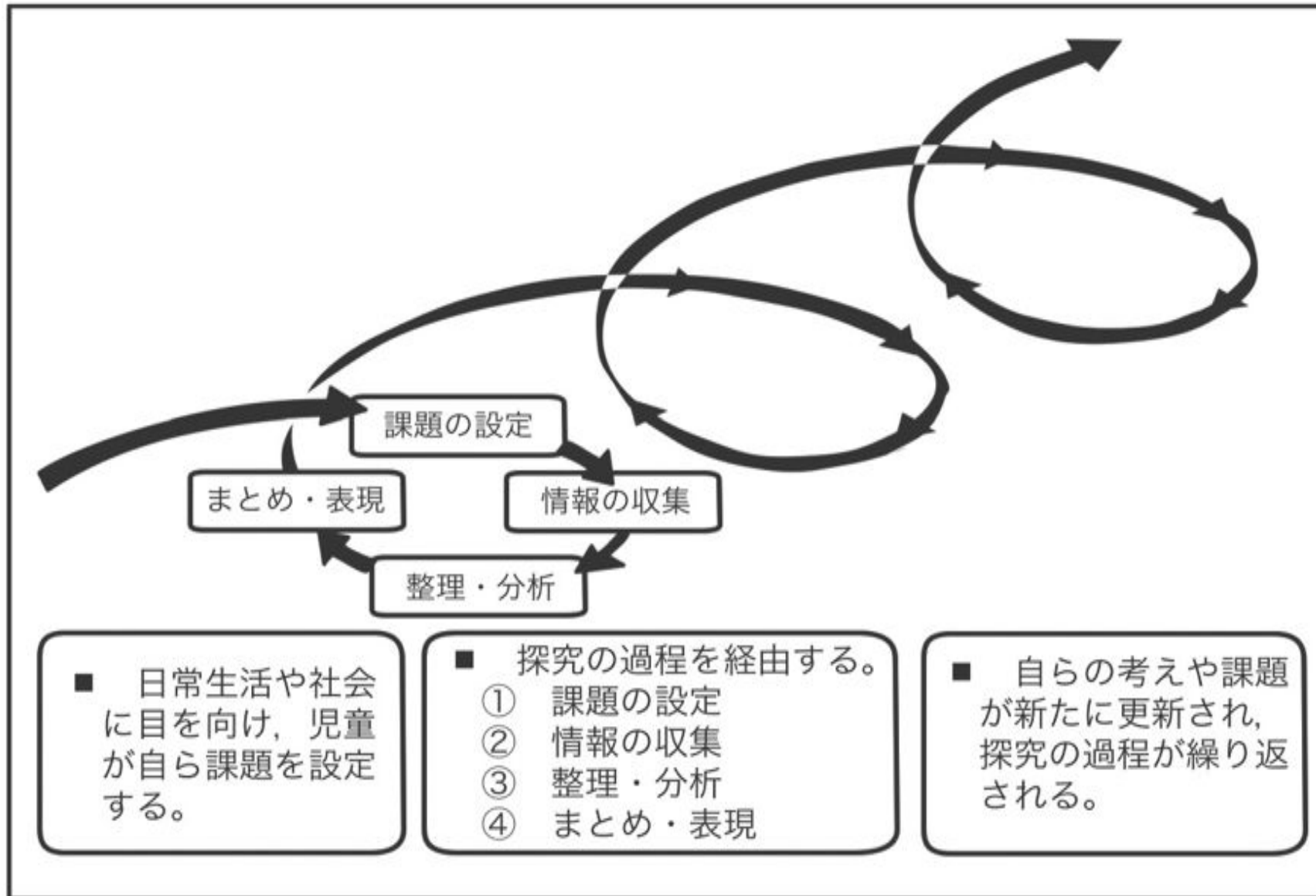
課題を設定する力

現実

問題を発見する力



探究的な学習における児童の学習の姿



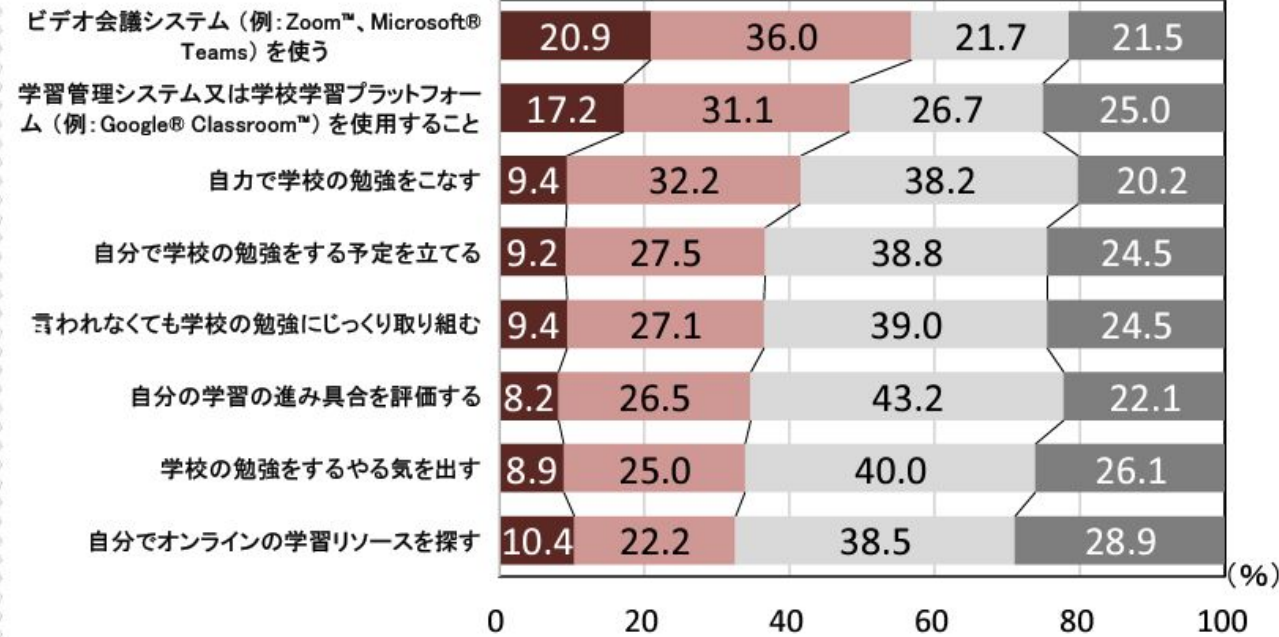
自律学習を行う自信

○学校が再び休校になった場合に自律学習を行う自信があるか、という質問に対する回答で、自信がないと回答した生徒が日本は非常に多かった。

生徒質問調査 問61 自律学習と自己効力感（日本）

「今後、あなたの学校が再び休校した場合、以下のことを行う自信はどれほどありますか。」

■ とても自信がある ■ 自信がある ■ あまり自信がない ■ 全然自信がない



○感染症の流行・災害の発生といった非常時のみならず、変化の激しい社会を生きる子供達が普段から自律的に学んでいくことができるような経験を重ねることは重要であり、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進により、自ら思考し、判断・表現する機会を充実したり、児童生徒一人一人の学習進度や興味・関心等に応じて教材や学ぶ方法等を選択できるような環境を整えたりするなど、自立した学習者の育成に向けた取組を進めていく必要がある。

「自律学習と自己効力感」指標

左の8項目の回答割合から指標値を算出。

OECD平均	0.01
34位 日本	-0.68

※OECD加盟国37か国の平均値が0.0、標準偏差が1.0となるよう標準化されており、その値が大きいほど、自律学習に対する自己効力感（自信）が高いことを意味している。

未来の創り手としての資質・能力

体験と言葉

対話・深い

生活科

具体的な活動や体験を行うに当たっては、**身近な幼児や高齢者、障害のある児童生徒などの多様な人々と触れ合うことができるように**すること。

(内容の取扱いについての配慮事項)

総合的な学習の時間

探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、**互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。**

(第1の目標(3)学びに向かう力、人間性等)

自然体験やボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れること。

(内容の取扱いについての配慮事項)